

あいち森と緑づくり事業計画の見直しについて

全体事業費上段：見直し後 下段：見直し前 単位：億円

事業	主な意見や要望	課題と考慮すべき事項
人工林整備 (間伐)	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林の適切な整備と防災・減災対策を継続実施することが重要</li> <li>伐採木を有効に利用する取組を継続して欲しい</li> <li>小規模な林業経営体でも間伐ができる事業やサポートが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路沿いの間伐や伐採木の有効利用を継続実施</li> <li>小規模な林業経営体が間伐できる事業等の検討</li> </ul>
次世代森林育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益的機能を持続的に発揮させるため、人工林の若返りと獣害対策が必要</li> <li>手入れ不足のまま高齢化し、主伐しても採算が合わない人工林への対策が必要</li> <li>補助対象苗木や基準の見直しが必要</li> <li>花粉症対策のためにも、少花粉スギ・ヒノキや広葉樹への速やかな転換が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主伐再造林による、人工林の若返りと確実な獣害対策の推進</li> <li>手入れ不足で高齢化した人工林への対策を検討</li> <li>補助対象苗木の種類の見直しを検討</li> </ul>
提案型里山林整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動団体会員の高齢化に伴う活動の停滞が懸念されるため、対策の検討が必要</li> <li>協定期間が20年間と長く、活動団体の負担が大きい</li> <li>事業の要望が多いので、積極的な予算の確保を期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動を継続できるよう、協定内容の見直しを検討</li> <li>県民のニーズに応えられるよう対策を検討</li> </ul>
都市緑化推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部の緑化では、民間企業と積極的な連携が重要</li> <li>民有地緑化について、面積要件の緩和が必要</li> <li>市街地の景観誘導や樹林地保全など、実施にはマニュアルや指針が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、都市の緑を守り、育てる取組を推進</li> <li>緑化イベントの開催など、効果的な普及啓発を実施</li> </ul>
環境活動・学習推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果が見えにくい地道な活動が重要であり、活動団体への継続した支援が必要</li> <li>様々な年齢層の県民が、身近な自然と関われる取組が必要</li> <li>子供の将来のために重要な取組であるため、もっと若い人に参加してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を幅広く周知し、環境活動等の取組を一層促進</li> <li>生態系ネットワークの取組を拡充</li> </ul>
木の香るまちづくり (普及啓発)	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県木材利用促進条例が制定され、県は新たな事業展開や取組が必要</li> <li>木材利用に係る事業の予算を増やして、しっかりと取り組んでほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の木材利用ニーズに応じ、PR効果の高い施設が増えていくよう対策を検討</li> </ul>
合計		



主な計画内容（下線部は今回見直した内容）	全体事業費
<ul style="list-style-type: none"> <li>林業活動では整備が困難な人工林の間伐。特に道路や河川沿い、集落周辺を重点的に実施</li> <li>間伐実績や航空レーザによる森林現況の計測結果を基にした間伐計画面積の見直し ※（計画量：16,000ha→<u>13,497ha</u>）※新規100ha分を含む</li> <li>今後の手入れが見込めない小面積森林の間伐に対する支援を新設 ※（計画量：0ha→<u>100ha</u>）</li> </ul>	150 (140)
<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林の若返りのため、主伐において不採算となる森林での伐採・集材や花粉症対策苗木の植栽、獣害対策、保育、<u>見回り</u>への支援 ※（計画量：450ha→<u>298ha</u>）</li> <li><u>特定苗木（エリートツリー）を補助対象苗木に追加</u></li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民、NPO等による保全活用を前提とした里山林の整備への支援</li> <li>地域からの要望に応えるため、<u>事業費の見直し及び協定期間の短縮</u>（事業費：71,694千円/年→<u>100,000千円/年</u>）（協定期間：20年→<u>10年</u>）（計画量：40箇所）</li> </ul>	8 (7)
<ul style="list-style-type: none"> <li>都市における緑地の保全・創出・活用や建物の緑化、公共施設の沿道等の街路樹の植え替えへの支援 ※（計画量：1,375件→<u>1,610件</u>）</li> <li>県民参加による緑づくり活動、体験学習や都市緑化の普及啓発に対する支援 ※（計画量：1,010回→<u>1,200回</u>）</li> </ul>	58 (60)
<ul style="list-style-type: none"> <li>森と緑の保全活動や社会全体で支える気運を醸成する環境学習への支援（計画量：750件）</li> <li>生きものの生息生育空間をつなぐ生態系ネットワークを形成するためのビオトープの創出等への支援及びモニタリング調査の実施（計画量：70件）</li> </ul>	6 (6)
<ul style="list-style-type: none"> <li>全国植樹祭の開催理念を継承し木材利用を促進するため愛知県産木材を使用したPR効果の高い建築物への支援 ※（計画量：20件→<u>80件</u>）（事業費：40,000千円/年→<u>100,000千円/年</u>）</li> <li><u>PR手法について、補助事業者が自ら情報発信する仕組みを導入</u></li> </ul>	11 (7)
事業費の増額の主な理由は、前半5年間の実績を反映した結果に伴うもの	233 (220)

注 ※印のある計画量は、計画期間前半の5年間は実績（見込み）とし、後半5年間は見直した計画量の合計としている。